

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270800814		
法人名	株式会社 安養介護サービス		
事業所名	グループホーム あんよう荘		
所在地	千葉県市川市南大野2丁目30番17号		
自己評価作成日	平成22年 2月14日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成22年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもとで、日常生活の支援及び心身の機能訓練を行う事により個々の入居者が有する能力に応じ、可能の限り自立して生活を営むことが出来る様、又、当ホームでの生活を継続出来る様に適切なサービスを提供いたします。ホーム内は家庭的な明るい雰囲気作りをしており、入居者様が人間としての尊厳を失わず明るく楽しく幸せに余生を過ごせるホームの実現を目指しており、特に残存機能自立支援を兼ねた大型貼り絵(市川市明青展に毎年出展)や布製の人形の共同制作は入居者様にとっても楽しみであると同時に恒例行事にもなっており、当ホームの大きな特長となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念として 個人を尊重 個人を護る 差別・虐待をしない 生活の主体者として支援 地域の一員として生きる支援 やすらぎと安心感の生活支援 自信を持って生きる支援 介護の専門性の向上 健全な運営の9項目を掲げた地域密着型の認知症高齢者グループホームである。増改築された建物・設備等ハード面は恵まれてはいないが、組織管理者の現場に理解がある対応や、介護主任を中核とした介護全般のソフト面の努力で、家庭的で明るい雰囲気を作り上げ利用者本位の生活支援が出来ている。また大型貼り絵や布製人形の共同制作や公民館での催し物への積極的参加による地域交流促進は当ホームの大きな特長である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>当ホームの理念を事務所や各フロアに提示し実践するように努めております。</p>	<p>事業所の理念はわかりやすい文章で9項目に改訂され、事業所各フロアの玄関に掲示されている。毎月のリーダー会議などで職員に繰り返し周知徹底が図られ、管理者と職員間で共有して実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の民生委員代表者様から、情報を頂き公民館などへのイベントの見学を行っております。</p>	<p>当該地域自治会に加入し、クリーン作戦や公民館で催される踊りの会等のイベントに積極的に参加している。またホームの敬老会に地域のフラダンス、大正琴等のクラブが、ホームの呼びかけに応じて来荘してくれる等、地域との関係作りが出来ている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>クリーン作戦や公民館でのイベント、又、運営推進会議などを活用して理解や支援を深めるように努めております。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月毎に開催し、報告や話し合いを行い色々な意見をサービスの向上に活かしております。</p>	<p>21年度の運営推進会議は、ほぼ2ヶ月毎5回開催されている。議事内容は家族とのつながりや地域との交流などについて活発に討議されている。特に民生委員のアドバイスから公民館での催し物への参加は増加し、地域住民との交流が促進される事から利用者には喜ばれている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議にも参加をして頂き協力関係を築いております。</p>	<p>市との接点は各種書類の提出時を中心に月に一回以上は持つようにしている。地域包括支援センターとは空き部屋斡旋協力をいただいている。また、運営推進会議には市職員、地域包括支援センターとも毎回出席していただいている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束はしていませんが、建物や地域の性質上、玄関は外部からの侵入を防ぐために施錠はしてあります。</p>	<p>防犯上玄関はオートロックにしているが、中からは自由に出入りできるようになっている。利用者が外に出てしまった場合のリスクはご家族にご理解をいただいているが、職員、ご近所の見守り、声かけ、連絡等で、今までに大きな事故になったことはない。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>主任やフロアリーダーなどを通じて高齢者虐待防止関連法について勉強し、虐待防止に努めております。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度等についての簡単な知識を周知させております。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご家族様には、ご契約の際に何回かに分けてご説明を行い、ご理解・ご納得をされた上で入居をして頂いております。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族がご来荘の際には、職員や管理者がご要望・意見を聞き運営に反映を出来る様に努めています。</p>	<p>利用者、ご家族のご意見はご家族来荘時や利用者アンケート等で聞いて運営に反映している。家族会はないが、敬老会時に意見交換が出来るよう配慮している。アンケートで散歩が少ないとの家族意見は真摯に受けとめ、改善に繋げている。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常的に、主任やフロアリーダーなどと話し合っております。</p>	<p>職員との意見交換はフロアリーダー会議や出退勤時に事務所で行われている。職員が直接言いにくい場合は介護主任が仲介して精査の上、意見具申している。職員の意見は勤務シフト体制の改善などに反映されている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>処遇改善手当などを活用し、向上心を持って働けるように努めております。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・市・社協が主催の研修・講習に出席するように努めております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修会や講習会を通じて、交流を出来る様に努めていきたいと思っております。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居後に、コミュニケーションを取り不安なことや要望をお聞きし、安心を確保する関係づくりに努めております。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居後に、コミュニケーションを取り不安なことや要望をお聞きし、安心を確保する関係づくりに努めております。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のご要望をお聞きし、その上でプランに反映させております。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の個々の生活ペースに合わせ、一緒に作業をしたり共同作品などを作成し、共に完成を喜び合うなどしています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様が必要としている品物(衣類・生活用品)などをご家族様と相談しながら購入して頂き、ご来荘された際にはコミュニケーションをとって頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居様が友人・親戚などに会いたい、または行きたい場所などを希望した時は電話や文章などで家族に伝え、なるべくご希望を叶える様にしています。	利用者から馴染みの人や場に行きたいとの要望があった場合は電話や毎月報告している支援経過に記載して家族に伝えている。介護主任は家族に対して利用者本位の立場で、要望を実現できるよう粘り強く家族に依頼し、理解を頂いている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の中に職員が入り、一緒に雑談をしたり、また入居者様同士が昔話や家族の事など色々話し合えるようにしています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様でも、相談に応じ支援に努めております。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ある程度の生活ルールはありますが、入居者様の日々の過ごし方は自由に過ごされています。昼寝やテレビ鑑賞・レクリエーションの参加も自由です。	入所に先立ち、昼食会と2～3日の体験入所を経て本人所している。この間会話や動作を観察して、意向の把握をしている。入所後も変化する意向や要望はコミュニケーションを密におこなうことによって把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、これまでの暮らしの中で馴染みの物を持ってきて頂き、ホームでの暮らしにも取り入れています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の状態をバイタルチェックなどで把握し、不穏の際には要因などを確認して心身共に負担を掛けない様に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回、主任・フロアリーダー・ケアマネージャーなどでケース会議を行いモニタリングをし介護計画に反映させております。	新入所者は家族情報や体験入所時の意向をもとに、3ヶ月の暫定サービス計画を経て、介護計画書を作成している。利用者全員の具体的なケアサービスはケース会議を毎月開催し、モニタリングをしている。	毎月開催しているケース会議でモニタリングがなされ、更新介護計画に反映させている。このケース会議に家族の出席を得て、チームで作る介護計画作成の充実を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事などを記録して(心身状態)など職員で共有しながら計画の見直しに努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診や急な外来受診など、ご家族が都合の悪い時は職員が対応するなど柔軟に取り組んでいます。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の人達とクリーン作戦などに参加して、地域の美化に取り組み豊かな生活が送れる様にしております。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が依頼している医師に情報提供を行い、往診や外来受診を行っています。又、急変時に対してはご家族に連絡後に入院適用の病院に依頼しております。	本人・家族の意向を尊重して、入所前のかかりつけ医の継続か、事業所の協力病院に変更するかを決めている。受診は家族付添いを原則にしているが、事情によって事業所が対応している。受診結果はお互い連絡しあっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームは、医療連携加算を取得していない為看護職がいませんが、協力医院の医師と連絡を取り合い支援を行っております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が時々面会して、その都度、健康状態を病院関係者やご家族と話し合っております。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームは、医療連携加算を取得していない為医療行為が出来ず、ご家族との話し合いで終末期には対応の出来る病院や施設に依頼をしています。	利用者の心身が減退しても、できるだけ介護を尽くすが、重度化して特別養護老人ホームや医療機関がより適切と認められるときは、その施設を勧めることを方針にしている。この方針を入所相談のときに説明してご家族の理解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、定期的な社内研修を主任が中心となって行っております。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の、消防訓練を他のテナントと共に行っております。	年2回消防署員立会いで消防訓練を、他テナントと共に実施している。避難訓練については夜間は五分以内に駆けつける警備会社契約をすると共に、火元から遠いベランダに避難させ、消防員の援助を待つよう指導している。スプリンクラーの設置も計画しているがまだ未解決である。	スプリンクラーの設置は補助金の手続きなどで遅れているが、早期の解決が期待される。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーを考慮し、居室に入室の際には必ず声を掛けてから入室し、又、トイレ介助の際は目の触れない場所で見守りを行います。	利用者の尊厳やプライバシーを守る為、3ヶ月間の職員雇用期間中に言葉遣いやケア時の気配り、個人情報保護などの教育を徹底している。日常においても介護主任によって厳しく現場指導されている。個人情報保護の扱いは契約時に同意をいただいている。	個人情報保護に対する事業所としての基本方針及び利用目的の明文化と職員及び利用者・家族に向けての掲示が望まれる。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の出来る入居者様にはして頂き、判断の乏しい入居者様には働きかけの支援を行っております。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様優先の生活ペースに合わせ、職員は見守り支援を行っております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣服で、好みの洋服を聞きその度支援を行っております。(訪問理美容も使用)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月一回お好み食を実施し、食事の準備や片付けの出来る入居者様は、職員と一緒に活動して頂いております。	業者が納める食材を利用者と一緒に食事の準備、調理、後片付けをしている。土曜日はパン食の日で、好みに応じてサンドウィッチやジャムパンにして召し上がっている。月1回、利用者の希望するお好み食の日もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量・栄養バランス(業者の栄養成分表を見て)を把握し、記録に残しております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の更衣時と食事後は口腔ケアを行っております。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄困難の入居者様には、様子観察を行いながら声掛けなどでトイレ誘導を行っております。	排泄チェックや動作観察からパターンを把握して、トイレ誘導している。失敗のときの声かけには直接的な表現は避けて、何気ない言葉で誘導しており、ふさわしくない声かけには介護主任が注意している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分やヨーグルトなどで補給を行いながら、適度な運動も行っております。		
45	(17)	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態をチェックして、ご希望に添い入浴して頂いております。	週2回の入浴を基本にしているが、希望する利用者は毎日でも入浴できる。入浴前に血圧、体温、心拍をチェックして体調を確認している。入浴を嫌う場合は時間をずらしたり、気分転換をはかるなど配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、お昼寝を希望される入居者様は居室にて休んで頂き、夕食後は更衣支援の後、自由に休んで頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の効能・効果又副作用の注意事項の理解をして、服薬後は確認に努めております。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の手入れ・庭の掃除・フロアで楽しむゲームや貼り絵、小物作りの支援を行いながら気分転換をして頂いております。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに各公園に行き、その時期の風景や花などを楽しみ、日常では近隣の散歩を行っております。	散歩日和のときは午前も午後も近所の公園などに散歩や、スーパーへ買い物に出かけている。また、季節に応じたお花見、こいのぼり見学、菖蒲園へのお出かけは、年間行事計画を立てて実施している。なかには、休日に家族と外食を楽しむ利用者もいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来る入居者様は所持をしているが、その他の入居者様は必要時に応じてご家族と相談しております。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人には、自由に電話をして頂いております。又、支援の必要な入居者様は職員が対応しております。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、消防法で許される限りの飾付けを行い、季節感や居心地よく過ごせるように工夫を行っております。	近所から頂いた草花やお雛さま、鯉のぼりなどを飾り季節感を出している。また、利用者が共同制作した貼り絵をリビングに飾り、作る楽しみと見る楽しみを演出している。湿度が不足がちにならないよう加湿器で調整して、のどに優しい環境に配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士でお話をされたり、居室でゆっくりテレビ鑑賞をされたりしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている品物は、ご家族と相談し居室に入れて頂き、以前の暮らしと相違ないように心掛けております。	入所の際に使い慣れた家具や照明器具を持ってこよう働きかけているので、慣れ親しんだ日用品が持ち込まれている。家族の写真を飾ることや介護主任手作りの雛人形を飾るなど居心地のよい居室作りをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りなどを使用しての歩行支援や、居室・トイレなどに表示をし出来るだけ自立支援を行っております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270800814		
法人名	株式会社 安養介護サービス		
事業所名	グループホーム あんよう荘		
所在地	千葉県市川市南大野2丁目30番17号		
自己評価作成日	平成22年 2月14日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な環境のもとで、日常生活の支援及び心身の機能訓練を行う事により個々の入居者が有する能力に応じ、可能の限り自立して生活を営むことが出来る様、又、当ホームでの生活を継続出来る様に適切なサービスを提供いたします。ホーム内は家庭的な明るい雰囲気作りをしており、入居者様が人間としての尊厳を失わず明るく楽しく幸せに余生を過ごせるホームの実現を目指しており、特に残存機能自立支援を兼ねた大型貼り絵(市川市明青展に毎年出展)や布製の人形の共同制作は入居者様にとっても楽しみであると同時に恒例行事にもなっており、当ホームの大きな特長となっております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>当ホームの理念を事務所や各フロアに提示し実践するように努めております。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の民生委員代表者様から、情報を頂き公民館などへのイベントの見学を行っております。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>クリーン作戦や公民館でのイベント、又、運営推進会議などを活用して理解や支援を深めるように努めております。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月毎に開催し、報告や話し合いを行い色々な意見をサービスの向上に活かしております。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議にも参加をして頂き協力関係を築いております。</p>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束はしていませんが、建物や地域の性質上、玄関は外部からの侵入を防ぐために施錠はしてあります。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>主任やフロアリーダーなどを通じて高齢者虐待防止関連法について勉強し、虐待防止に努めております。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等についての簡単な知識を周知させております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様には、ご契約の際に何回かに分けてご説明を行い、ご理解・ご納得をされた上で入居をして頂いております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がご来荘の際には、職員や管理者がご要望・意見を聞き運営に反映を出来る様に努めています。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に、主任やフロアリーダーなどと話し合っております。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当などを活用し、向上心を持って働けるように努めております。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・市・社協が主催の研修・講習に出席するように努めております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修会や講習会を通じて、交流を出来る様に努めていきたいと思っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居後に、コミュニケーションを取り不安なことや要望をお聞きし、安心を確保する関係づくりに努めております。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居後に、コミュニケーションを取り不安なことや要望をお聞きし、安心を確保する関係づくりに努めております。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のご要望をお聞きし、その上でプランに反映させております。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の個々の生活ペースに合わせ、一緒に作業をしたり共同作品などを作成し、共に完成を喜び合うなどしています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様が必要としている品物(衣類・生活用品)などをご家族様と相談しながら購入して頂き、ご来荘された際にはコミュニケーションをとって頂いております。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が友人・親戚などに会いたい、または行きたい場所などを希望した時は電話や文章などで家族に伝え、なるべくご希望を叶える様にしています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の間に職員が入り、一緒に雑談をしたり、また入居者様同士が昔話や家族の事など色々と話し合えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様でも、相談に応じ支援に努めております。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ある程度の生活ルールはありますが、入居者様の日々の過ごし方は自由に過ごされています。昼寝やテレビ鑑賞・レクリエーションの参加も自由です。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、これまでの暮らしの中で馴染みの物を持ってきて頂き、ホームでの暮らしにも取り入れています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の状態をバイタルチェックなどで把握し、不穏の際には要因などを確認して心身共に負担を掛けない様に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回、主任・フロアリーダー・ケアマネージャーなどでケース会議を行いモニタリングをし介護計画に反映させております。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事などを記録して(心身状態)など職員で共有しながら計画の見直しに努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診や急な外来受診など、ご家族が都合の悪い時は職員が対応するなど柔軟に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の人達とクリーン作戦などに参加して、地域の美化に取り組み豊かな生活が送れる様にしております。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が依頼している医師に情報提供を行い、往診や外来受診を行っています。又、急変時に対してはご家族に連絡後に入院適用の病院に依頼しております。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームは、医療連携加算を取得していない為看護職がいませんが、協力医院の医師と連絡を取り合い支援を行っております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が時々面会して、その都度、健康状態を病院関係者やご家族と話し合っております。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームは、医療連携加算を取得していない為医療行為が出来ず、ご家族との話し合いで終末期には対応の出来る病院や施設に依頼をしています。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、定期的な社内研修を主任が中心となって行っております。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の、消防訓練を他のテナントと共に行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーを考慮し、居室に入室の際には必ず声を掛けてから入室し、又、トイレ介助の際は目の触れない場所で見守りを行います。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の出来る入居者様にはして頂き、判断の乏しい入居者様には働きかけの支援を行っております。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様優先の生活ペースに合わせ、職員は見守り支援を行っております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣服で、好みの洋服を聞きその度支援を行っております。(訪問理美容も使用)		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月一回お好み食を実施し、食事の準備や片付けの出来る入居者様は、職員と一緒に活動して頂いております。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量・栄養バランス(業者の栄養成分表を見て)を把握し、記録に残しております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の更衣時と食事後は口腔ケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄困難の入居者様には、様子観察を行いながら声掛けなどでトイレ誘導を行っております。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分やヨーグルトなどで補給を行いながら、適度な運動も行っております。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態をチェックして、ご希望に添い入浴して頂いております。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、お昼寝を希望される入居者様は居室にて休んで頂き、夕食後は更衣支援の後、自由に休んで頂いております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の効能・効果又副作用の注意事項の理解をして、服薬後は確認に努めております。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の手入れ・庭の掃除・フロアで楽しむゲームや貼り絵、小物作りの支援を行いながら気分転換をして頂いております。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに各公園に行き、その時期の風景や花などを楽しみ、日常では近隣の散歩を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来る入居者様は所持をしているが、その他の入居者様は必要時に応じてご家族と相談しております。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人には、自由に電話をして頂いております。又、支援の必要な入居者様は職員が対応しております。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、消防法で許される限りの飾付けを行い、季節感や居心地よく過ごせるように工夫を行っております。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士でお話しをされたり、居室でゆっくりテレビ鑑賞をされたりしております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている品物は、ご家族と相談し居室に入れて頂き、以前の暮らしと相違ないように心掛けております。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りなどを使用しての歩行支援や、居室・トイレなどに表示をし出来るだけ自立支援を行っております。		